

# たんちよう

JAくしろ丹頂  
広報誌

vol.127  
2018.5

くしろ丹頂

## 春期地区懇談会



本 所

### C O N T E N T S

- 平成30年度 春季地区懇談会 ————— 1
- 釧路丹頂農協女性部 通常総会 ————— 2
- 釧路丹頂農協乳牛改良同志会 定期総会 ——— 3
- 釧路丹頂農協青年部 通常総会 ————— 4
- JA青年部役員とJA役職員との意見交換会  
チャレンジ60「946運動」酪農シンポジウム—— 5
- 酪農実習体験・感想文 ————— 6~11
- 普及センターだより ————— 12
- JA北海道大会パネルディスカッション — 13~14
- JAグループ通信 ————— 15
- 金融課からのご案内 ————— 16
- 理事会報告 / 生乳生産実績 / 退職者 ——— 17



意見を述べる對木賢雅青年部長  
JA青年部役員とJA役職員との意見交換会

# 平成30年度 春季地区懇談会

～酪農経営発展に向けた意見・要望等が多く出されました～



白 糠 支 所

平成30年度 春季地区  
懇談会が、4月25～26日  
の2日間、2地区（白糠・  
鶴居）で開催されました。  
組合員の皆様方には、  
時期的に農作業等で大変  
お忙しい中、2日間で計  
54名の方々に出席頂きま  
した。

懇談事項として、最近  
の酪農・畜産情勢等、平  
成29年度事業報告及び決  
算承認、平成30年度事業  
計画の設定、第12回通常  
総会の招集及び提出議案  
等について説明がありま  
した。

出席した組合員の皆様  
方からは、将来を見据え  
た酪農経営の維持・発展  
に向けての体制整備、農  
協各部門における持続可  
能な事業運営方針及び機  
構改革等に対する具体的  
な質問・意見・要望等が  
数多く出されました。



本 所

今回、組合員の皆様方  
から出された質問・意見・  
要望等は今後の事業運営  
に活かして参ります。



# 釧路丹頂農協女性部 通常総会

～女性部員が協力し「ふみだす勇氣」と「仲間づくり」の実践～

## 第12回 釧路丹頂農協女性部通常総会



後列左から、長尾理事、秋里理事、岩田理事、渋谷理事、佐藤理事、村上監事  
前列左から、吉田監事、對木副部長、館山部長、武藤副部長、菅原副部長

### J A 女性部 新役員

部 長	館 山	順 子	鶴 居
副部長	武 藤	和 江	白 糖
〃	對 木	美 由	音 別
〃	菅 原	晴 美	音 居
理 事	秋 里	香 織	鶴 居
〃	長 尾	朋 子	白 糖
〃	塩 越	幸 枝	白 糖
〃	岩 田	登 美	音 別
〃	佐 藤	ま 鈴	音 居
監 事	吉 田	上 子	音 居
〃	村 上	明 子	音 居

3月19日、本所で第12回釧路丹頂農協女性部通常総会が開催されました。開催にあたり、出席者全員でJA女性組織綱領を朗唱しました。

当日、都合により欠席した成田洋子部長に代わり菅原晴美理事が挨拶文を代読し、「今、私達を取り巻く状況は、不安定な農業情勢・異常気象など心配な事は多々ありますが、こんな時だからこそ、人と人とのつながりと笑顔が必要です。私達に何ができるのかを考

え、女性が元気でいられる環境づくりや女性部員相互の輪と心の豊かさを求めて活動して参りたい。」と述べました。

議長は、音別支部の佐藤まり子さんが務め、平成29年度事業報告並びに収支決算、平成30年度事業計画他、全議案承認されました。

役員選任では、新部長に館山順子さんが選任され、新体制は上記のとおり決定し、総会は盛会裡に終了しました。



佐藤まり子議長

# 釧路丹頂農協乳牛改良同志会 定期総会

～乳牛改良を主眼に、担い手確保への取り組みも視野に～



3月22日、本所で第12回釧路丹頂農協乳牛改良同志会定期総会が開催されました。

開会にあたり、瀧澤一成会長が挨拶し、「昨今の酪農情勢は、乳代単価及び牛の価格は上昇しておりますが、一番の問題は人材不足、担い手不足があげられます。効率良い経営を考えた時、酪農になくはならない乳牛の改良、高乳量・高体型等を考えた牛づくりを主



挨拶する瀧澤一成 部長

眼におき、また将来を見据えた担い手確保等についても他の組織とも連携し、力を合わせながら取り組んで参りたい。」と述べました。

議長は、鶴居支部の増田一真さんが務め、平成29年度事業報告並びに収支決算、平成30年度事業計画他、全議案承認され、総会は滞りなく終了しました。



増田 一真 議長



# 釧路丹頂農協青年部 通常総会

～安全・安心な生乳生産に努めつつ、牛乳のPR活動を継続～



照井 優 議長

3月22日、本所で第12回釧路丹頂農協青年部通常総会が開催されました。開催にあたり、出席者全員でJA青年組織綱領を朗唱しました。  
對木賢雅部長は、「昨年度は、地区青協50周年にあたり記念式典等を皆様の御協力により盛会裡に終了することができ感謝申し上げます。昨今の酪農情勢は、乳価と個体販売の高値推移により経営状況は上向きにあると思われませんが、CPTPの調印により世界的な

情勢は、未だ不透明感が拭えません。また、全道的な担い手不足の問題についても解決策を考えたつ、牛乳配布など、消費者へのPR活動を今後も継続して取り組んで参りたい。」と挨拶しました。  
議長は、音白支部の照井 優さんが務め、平成29年度事業報告並びに収支決算、平成30年度事業計画他、全議案承認され、総会は盛会裡に終了しました。



JA青年組織綱領を朗唱

## JA青年部役員とJA役職員との意見交換会

～今後の事業運営方針等について討議～



3月22日、本所でJA青年部の通常総会終了後、同部役員と当JA役職員との意見交換会が開催されました。武藤組合長からは、「現在の国の政策等に対し、将来を見据えつつ事前に出来る事はしっかりとやっていく必要がある、組合員の皆様の負担が最小限となる方針を立て取り組んで参りたく、御理解と御協力をよろしくお願い致します。」と挨拶し、白木常務及び松墓参事から機構改革を進めてきた経過及び本組合の持続可能な事業運営のあり方等について説明がありました。部員からは、事業運営体制に対する具体的な質問等が出され、将来ビジョンを含む今後へ向けた大変意義ある意見交換会となりました。

## チャレンジ60「946」運動酪農シンポジウム



3月8日、釧路で、チャレンジ60「946運動」酪農シンポジウムが開催されました。（一社）中央酪農会議 田 潔氏より「日本酪農を巡る情勢と新補給金制度下で求められる指定団体の役割について」、北海道大学大学院農学研究院 小林国之氏より「新規担い手の確保と地域コミュニティの維持に向けて」と題して講演され、学ぶことの多い意義あるシンポジウムとなりました。



※2月14～23日、日本獣医生命科学大学の2年生13名が来所し、各農場へ実習に入りました。実習を終えた感想文の報告2回目です。

### 受入先・斉藤実穂農場



佐藤 聖也 さん

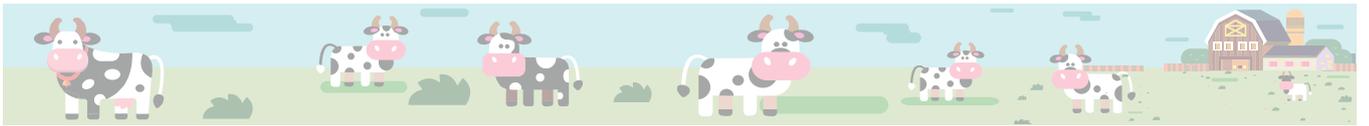
私はこの実習を通して多くのことを学びました。酪農に関することはもちろん、北海道のことやこれらの人生のことなどを学べたと思います。冬の厳しい寒さの下での作業は初めてでした。朝早く、まだ日も昇っていない環境では、暗くて寒かったです。こういう体験もそうできるものではないと思うのでとても良い経験になったと思います。

し将来北海道で牧場をやるとしても、夏の快適さや冬の厳しい寒さを経験したので、自分の中で大きな自信になったと思います。酪農に関しては、牛に関する知識はもちろんのこと、体力も大切だということが分かりました。一つ一つの仕事が終わって休んでいるようでは、仕事の効率や速さを意識する酪農の世界ではダメなんだと思います。いかに効率良く、素早く何事も行うことが大切だと感じました。また、今回訪れた斉藤牧場では乳牛だけでなく、和牛や馬も飼育しており、エサやりなどの体験もすることができたので良かったです。そして今回の実習で初めて牛の分娩に立ち会うことができました。哺乳類の分娩を見るのも初めてだったので、とても良い経験になったと思います。

す。分娩を手伝うこともでき、子牛が産まれた瞬間に命を感じることができました。そして、半年振りくらいに搾乳を行いました。自分なりに上手くできたと感じます。しかし、何点かこうした方がいいと指導を受けたので、それを今後にしっかりと役立てていきたいです。搾乳のことだけではなく、全体を通して教えていただいたことを今後に役立てたいと思います。

を聞くことができ、貴重な時間でした。そして、何よりもこの実習で感謝したいのが、今回受け入れてくれた斉藤牧場のみなさんです。酪農に関することをたくさん教えていただいたり、生活面も不便なく過ごすことができました。手作り料理は全てが美味しく、特に牛乳豆腐という牛の初乳を用いて作った牧場経営ならではの料理は、珍しくてとても美味しかったです。

最後に10日間の実習というの自分自身、今までで一番長く、最初の方は長いと感じていましたが、いざ終わってみると、とても短く感じて内容の濃い10日間でも充実していました。今後、もし北海道に実習する機会があれば積極的に参加したいと思います。



## 受入先・(有)鈴木農場



寺田 えりか さん

私は鈴木農場さんに10日間お世話になりました。大学の農場には行ったことがありましたが実際の農場に来たのは初めてだったため、とても新鮮でした。そして何よりも鶴居の寒さは今まで体験したことのない寒さでした。事前に聞いてはいても実際に朝、作業しているとすごく実感しました。また農場で頻繁にタンチョウを見ることができ、牛の飼料を食べてしまう存在ではありますが、見られて良かったと思いました。搾乳や子牛の哺乳は初めてではありませんでした。

が、農場のやり方に慣れるのにはやはり少し時間がかかりました。搾乳に関してはどれが乳房炎なのか、どれが乳質の悪い捨てる乳汁の出るものなのか見分けるのが難しく、今だに分からないこともあり、もう少し慣れる必要があると思います。

実習中には、搾乳や子牛の哺乳以外にも様々なものを見学させて頂きました。人工授精師の方が来て人工授精の様子を見せてもらったり、ロボット搾乳の様子を近くの農場で見せて頂いたりもしました。ロボット搾乳は初めて見たので非常に感動しました。センサーで搾乳する牛か判断し、乳頭を洗浄し搾乳を行うという一連の動作を全てロボット1台が行っていました。3000万円程度かかったそうですが、長い目で見れば

人件費削減のためにはロボットの方が利益が出るのかなと思います。

また実習の期間中にはちょうど子牛が生まれる所も見学することができました。足まで出ていた子牛を獣医の方が引っ張り、出てきました。母牛が子牛をずっとなめてやっている所が懸命で感動しました。実習中に子牛が何頭か生まれましたが死んだ牛も何頭かおり、その前日には私が点滴液を持っていた牛だと考えると少し残念ですが、農場では日々生と死がくり返されており生産する上で仕方ないことなのだとよく分かりました。

10日間という短い期間ではありますがありますがその間農場では日々様々なトラブルが起こり、そういうことも含めて実際の農場の様子を知ることができて本当に貴重な

な体験ができたなと思います。農場の方には大変お世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。この場を借りてお礼を申し上げます。鈴木農場の方々、協力して下さった農協の職員の方々、10日間本当にありがとうございました。

## 受入先・(有)鶴翔



佐藤 一智 さん

私は鶴居村幌呂にある鶴翔という農場でお世話になりました。ここの牧場は、パーラーを用いて牛31頭をまとめて搾乳する方式をとっており、また、フィリピンやベトナムから来た実習生もいる農場でした。北



北海道は東京と違って寒く、時にはマイナスの気温になることがあります。農場先でお世話になった人達はとても温かい人達でした。色々な話しをしたり、時には指導をしてもらったり、質問に丁寧に答えてくれたりしてとても助かりました。

朝は早く4時起床でしたが頑張って遅刻しないように注意していました。また、4時頃の空を見てみるととても星がきれいでした。牛舎には、ホルスタイン、ブラウンスイス、ジャージー、黒毛和種のF1（交雑種）があり、実習期間は主に、ホルスタインとブラウンスイスの牛舎（牛床）の掃除と搾乳を行いました。牛舎の中はとても広く糞の掃除は4人くらいで行い、搾乳も4人くらいで行いました。特に朝の掃除、搾乳す

る時間はとても寒く、くつ下2枚くらいはいていきました。

ホルスタインに関しては時おり発情行動をとったりしていました。また、白黒のホルスタインのみではなく赤白のホルスタインもいて驚きました。毎日の食事はとても美味しかったです。よくおかわりをしました。様々な人との助け合いから成り立っているということと、協力をしないと仕事ができないということもわかりました。また、作業以外のことに関しては、酪農祭があり、そこでは講演会や食事会、話し合いを通して色々な事を聞くことができました。

最後に、この北海道鶴居村幌呂で過ごすことができただこと、鶴翔で体験実習ができたことを生きていく糧にしていきたいです。協力

してくれた坂本さん一家と鶴翔の皆さんに感謝します。

**受入先・林 稔幸農場**



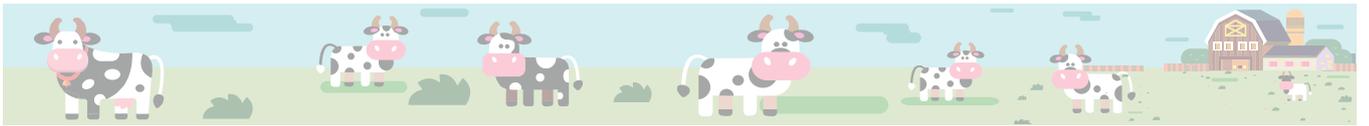
原田 亘 さん

私はこの10日間の実習を行い、自分が酪農という職業を少し勘違いしていたことに気がついた。朝早くから仕事をするとか、肉体的労働がきついという次元の話ではない。生きものを扱う仕事というものの厳しさを改めて気づかされたのだ。

酪農という仕事は、牛をただただ搾乳して、牛乳を売ってのんびりと生活しているものだと思っていた。

しかし、実際はそうではなく、常に考えなければならぬ。さらに牛だけの知識ではなく、様々な知識や技術を必要とする。どの牛は搾乳に回し、どの牛は市場に回すなど、常に自分に都合の良い方を選択して動かさなければならぬのだ。さらに、いつ何が原因となつて乳がしぼれなくなつてしまふかはわからない。牛が死んでしまつたり、乳房炎になつてしまふかは予測がつかないのだ。そういった不測の事態に対応できるよう、常に気を張っていないければならない。自営業で、自分が経営者になるという根本的な考えが欠落していたことに気づかされた。

今回の実習ではたくさんものを体験することができた。産まれたばかりの牛や分娩後の牛がどれだけ危険で厳重な管理をしなければ



ばならないかということをも身をもって体感することもできたし、齢で変化する飼養管理の注意点や様々な技術が存在していた。だが、これもまた難しく基本的な管理方法というものはあるが、一概に正解と呼ばれる方法はない。与えられた情報などを鵜呑みにするのはなく、そこから自分の経験や知識でその情報の加工を行うことが重要なのだ。そういった面でも常に考えていなければならないのだと感じた。

また人と人との関わりがとて重要であると感じた。実習中にも様々な人が訪ねてきていたし、近くの農家さんたちともたくさんコミュニケーションをとっていた。決して自分ひとりでは出来ない仕事だということも改めて実感した。どうしても農家や田舎

というものによるものを排除しようとする排他的な考えが存在するのかという不安があったが、実際に行ってみると全くそんなことはなかった。実習生の自分にも他の農家さんと同じように気さくに話しかけてくれたし、美味しいものもたくさん食べさせてくれた。むしろ自分の方が気を遣いすぎてしまったように感じる。

この10日間の実習を通して、私は畜産のことだけでなくたくさんのものを学んだ。この経験は自分で行かなければ絶対にわからないものだったと思うし、自分の進路にも強く影響したと思う。何も分からない自分に本当に様々なことを教えてくれた林牧場さん、そしてこのような機会を用意してくださったJAのみなさまに心より感謝を申し上げます。

ます。楽しかったです。本当にありがとうございました。

### 受入先・(株)佐藤牧場



渡辺 瑞輝 さん

私は今回の実習で酪農というものに密に携わることのできた気がする。今回お世話になった佐藤牧場さんではロボット搾乳やバーンクリーナーなど機械の導入がされていた。しかし、私が掃除したところで牛が生活をし、寄せた飼料を牛が食べ、といったことで生乳生産に関わることができた。その生乳を業者が集めて来たところを見たら、「このようなことがあつてか

ら、いつも飲んでいるあの牛乳になるのか」と酪農に関わる全ての人や動物たちに感謝したいと思った。成牛がいるということは子牛もいるということで、カーフハッチを換えたり、哺乳を手伝わせていただいた。次世代への期待を込めたいと思った。9泊10日のうちで2度の分娩に立ち会うことができたのも良い経験だ。「出産」を見たのは今回が初めてで、新たな命の誕生により遺伝子が残されていく様子をうかがえた。

酪農「家」ということで家族で同じ仕事をし、給料が発生し、ということが身近に自営業の人がほとんどいない私にとっては不思議な感じであった。今回はヘルパーさんのいない状況で実習させていただいたが、いる場合ではまた違ったことを感じられたら



う。

普段、大学でうけている授業で学ぶことを実際に見たり、現地で聞いたりすると繋がったという実感を得られた。まさに「百聞は一見にしかず」だと思った。また、知識不足を実感した場面も多々あったので復習しておこうと思った。

酪農祭に参加し、家畜診療所へ勤める方からのお話を聞いたり、釧路丹頂農協での生乳の牧場単位での優秀賞発表を見たりした。酪農に関わる人たちの集まりは初めて見たと思う。私たちに牛乳などを提供してくれる人たち、私の知らないところで支えている人たち、ということで大きく輝いて見えた。

農、牛に関わるということがほとんど初めてだった。1から教えてくれた牧場の方々のおかげで充実した実習にできた。地元、東京では味わえない厳しい寒さや新鮮な牛乳など、北海道を感じる事ができた。景観や空気など北海道とはこんなに良いところだったのかと思うことができたので、いままで一度でも来ておくべきだった。

今回の実習で見たり聞いたり、学んだことを今後の生活や進路を考えるのに役立てたいと思った。

### 受入先・石黒一志農場



西出 沙代子 さん

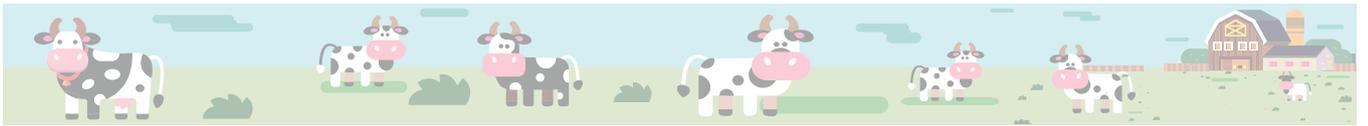
私は白糠町の石黒牧場さんでお世話になることとなりました。以前、北海道酪農ヘルパーインターンシップで標茶に行つて以来の北海道ですが、冬の北海道がどのようなかはまだ行つたことはなく、今回初めて知るようになりました。

初日は夕方というのもあつてか、比較的あたたかい気温の中で作業しました。搾乳の時間が終わりに近づいていたので作業を見て覚えることからスタートです。ひたすら指示されたことをやりました。でもただやるだけではなく、石黒さん夫婦がとても親切にやり方を教えてくださいました。私はあまり、もの分かりがいい方ではありません。ただ「あれしろ」「これしろ」といわれても次にやるときは、何をしたらいい

いかまた迷つてしまいました。でもお二方は、どうしてこの順番でこの作業をするのか、丁寧に分かりやすく説明してくださいました。それは今まで何をやるでも上手いかなかった私にとつて目から鱗のような方法でした。そんな感じで糞かきや牛舎内の掃除、搾乳、仔牛への哺乳、牛の出し入れ等々いろいろな作業をやらせていただくことができました。

また、なかなか体験できないこともさせていただきました。獣医師による診察の見学、他の牧場の見学、乳牛市場の見学、耳標付け、トラクターの運転…。一般の会社員と主婦の家庭に育つた私には、どれも見たことのない、したことのない出来事ばかりですごく驚嘆しました。

そして、その行く先々で



多くの人がこの仕事に関わっていて、私が思った小さな疑問にも嫌な顔1つせずに対応していただきました。

それから、石黒さんにはいろいろなところに連れて行っていただきました。お土産がたくさん置いてある道の駅「恋問館」や、チーズやヨーグルトといった乳製品を作り販売している酪楽館や酪恵舎、地元の食材を使った料理を提供している「はまなす」さん。そして、広大な湿原が広がる釧路湿原。どれもこれも素晴らしい場所でした。

最後に、石黒さんご家族には大変お世話になりました。毎日三食おいしいご飯を用意してくださいましたし、困っていることにはすぐに対応してくれました。私の質問にもたくさん答えてくれました。不安だらけ



酪農祭で武藤組合長に紹介される日獣の生徒達

だった最初の頃がまるで嘘のように充実した楽しい実習でした。もし、夏の実習でご都合があればまたこの地域で、できることなら石黒さんの元で学ぶことができれば嬉しいです。本当ありがとうございます。



組合員の皆様方、お世話になり誠にありがとうございました!!

## 糞から分かること

日々の飼養管理の中で、牛の変化に気を配ることは酪農家にとって大切な仕事です。変化の一つに、「バンカーが切り替わってから糞がゆるくなった」という話を聞くことがあります。

今回は、糞の状態から分かることを、糞を洗って調査した結果から考えてみたいと思います。

### 一 糞を洗う方法

今回、糞洗いに用いたのはアメリカ・NASCO社が販売している「ダイジェスションアナライザー（以下、糞洗い機）」です。糞洗い機は網目の大きさが違う三段のふるい構造になっており、搾乳頭数の一〇%から採取した糞を上段に乗せシャワー洗ひし、各段に残った未消化物から消化状況を判断します（写真一）。



写真1 糞洗い機を用いた糞洗いの様子

## 二 糞洗い結果から分かること

①各段の内容物を見た目で評価  
糞洗い機の上段には未消化の繊維・穀類・ムチン、中段にはまだ消化余地のある繊維・穀類、下段には十分消化された内容物が残ります。

ムチンとは、ルーメンで消化されなかった穀類が大腸で過剰発酵した際に分泌される粘液で、糞中には管状の粘膜として出てきます（写真二）。ムチンが見られる場合は、大腸が損傷した証拠なので、給与飼料の見直しなど早急な対応が必要です。



写真2 赤枠内に見られるムチン

②各段の重さ割合で評価  
各段に残った未消化物の重さ割合から消化状況を判断します

（写真三）。各段の目標値は上段一〇%未満、中段二〇%未満、下段五〇%以上とされ、上・中段割合が高く、下段割合が低いほど消化不良と考えられます。

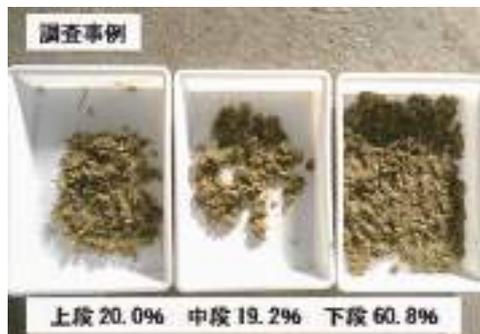


写真3 各段に残る未消化物の重さ割合で消化状況を判断（写真は消化状況の良い結果）

また、上・中段に穀類の大きな粒子や過剰な粗飼料が残る場合は、ルーメンアシドーシスの可能性が考えられます。その要因としては、濃厚飼料の過給、とうもろこし子実の破碎不足、サイレージの切断不足などが挙げられます。

### 三 現地調査事例

A農場は台風による倒伏を避けるため、サイレージ用とうもろこしの収穫を早め、クラッシュヤーを開放状態で収穫しました。

このサイレージを開封したところ、破碎されていないコーンの子実が多く見られたので、消化状況を確認しました。その結果、破碎されていない子実は消化されずにそのまま糞中に出てきていました（写真四）。



写真4 未破碎の子実は糞に排出される

糞洗いの結果を紹介しましたが、糞から牛の状態全てがわかる訳ではありません。牛の状態を判断する方法の一つととらえ、除糞の際などに糞の状態を気にかけてみてください。

（平成三〇年三月作成）

## J A北海道大会実践フォーラム パネルディスカッション

テーマ「協同の力で実現する新規担い手倍増に向けて」

「協同の力で実現する新規担い手倍増に向けて」と題したパネルディスカッションの内容の最終回をご紹介します。



小林 国之氏

北海道大学 准教授

を地域に定着させる取り組みが重要になると思います。JAけねべつにおける取り組みを伺えますでしょうか。

新規参入者の支援にあたっては、バックアップチームといったような新規で参入した人

中瀬 満氏

JAけねべつ 参事

(事例発表者)



うちの地域は酪農専業地域であり、投資に際しては多額の借金が必要なため、新規参入者も相当の覚悟で入ってきます。そこでは農協を核としつつ、地域の方々、関係機関の方々と相談機能を充実させていかないと、就農者は不安になります。うちの

農協は、3年間に渡り支援の対策を講じております。地域総体で支援しているから頑張ろうよ、といった掛け声をかけながら、取り組んでおります。

小林准教授 支援の体制において、こういうところはもっと改善したいという点がありますか。

中瀬参事 農協の担当者は色々相談を受けますので大変なのかなとも思いますが、就農者自体は今のところ順調に推移しているのかなと感じます。

小林准教授 宮下さんに一点伺いたいのですが、栗山も今までたくさんの新規参入者を受け入れられてこられたと思います。栗山においても計根別のようにバックアップチームといったものをつくって就農後のサポートをするという体制をとっているのでしょうか。



宮下 道男氏

栗山町農業振興公社

就農支援アドバイザー

うちの場合では、研修生の受け入れ先を、技術レベルが高くリーダーシップのある農家に固定しており、そこで指導を受けてから、就農してもらっております。新規就農者が研修先の親方を一番頼りとするような仕組みにしてお

ります。

小林准教授 新規参入者の受け入れは地域の共通目標でなければいけないですし、受入体制の安心感を、受入れの前後で与えられる体制が必要と感じます。

最後に新規担い手倍増に向けて、JAグループとして、または自分として取組みたいことを一言ずつお願いします。

宮下氏 農業者の財務状況や人柄が一番分かるのは農協の職員、理事さんだと思います。新規参入者を経営基盤の悪い地域に入れても、中々育ちません。JAには農業を辞める人のこと、また今営農されている方々の経営指導に取り組みで頂き、スムーズに経営移譲できる体制づくりをお願いしたいです。

近江 正隆氏

株式会社ノースプロダクション

代表取締役



地域の子どもたちが、素晴らしい地域に住んでいるんだ、父さん母さんは命に直結する大事な仕事をしているんだと誇りに思っ育つように、学校の先生や地域の行政とも連携するべきだと思います。子どもたちが小さい時から農業に憧れるよう、取り組めることはまだまだあると思います。



## 齊藤 和弘氏

北海道農協青年部協議会  
顧問

けねべつさんの事例を聞きまして、強い決意、これが一番大事だと感じました。青年部



のポリシーブックにはどの地区でも担い手不足の問題が書かれています。今日いらつしやる方々には、強い決意を以て、取り組んで頂ききたいですし、僕らも人との繋がりに関わる取り組みを実践していきたいです。個人的には3人の子どもの誰かに跡を継いでほしいと思っておりますし、酪農、父さんってかっこいいね、そう言ってもらえるようになりたいです。



**中瀬 参事** 今日是我々の農協の事例発表をしましたが、今度は自分が各地区の担い手対策についてもっと勉強したいです。農業に活力を生み出すには、若い人に活力があることが一番重要だと思います。そういう部分は農協としても力を入れながら、計根別は若い人もいて楽しいよ、そんな風に言える地域にしていきたいです。



## 石田 健一氏

J A北海道中央会 参事

地域の担い手は地域で育成、確保するのが基本ですが、中央会・連合会の取り組みとし

ては平成28年度からJAグループ北海道担い手確保育成支援事業を立ち上げました。平均規模以下の方に後継者が戻り規模拡大あるいは追加投資をする場合に、JAや地元行政が助成すると、そこに追加的に支援・助成するという事業です。この2年間で27農協124人の方に事業を通じて支援、助成を致しました。中央会・連合会もまだまだ微力ですが全道の新規担い手倍增という目標に向かって支援をしていきます。

**小林 准教授** 皆さんのお話を聞いて、地域の担い手は地域で作るという決意、覚悟が何よりも大事だと思えます。これからの北海道は人が少なくなっていくという側面があり、北海道農業を今まで当たり前であった取組みの延長線上では考えることが難しくなってきました。そんな現状を感じ



ながら一度立ち止まって、地域の姿がどうなるか、自分たちや子どもたちの将来がどうなるかということを考えてみるべきだと思います。けねべつさんはそういう機会を実際に設けられて、地域の合意形成をした上で、自分達も身銭を切りながら支援策をやってこられました。今日のパネリストの皆さんの話を踏まえ、一人一人が地域に戻りそれぞれの立場で活動して頂いて、20年後、30年後の北海道農業はどうなるのと今後聞かれたときに、地域でこんな話をしていられるよと答えて頂けるように北海道全体として変わっていければと思います。これを以て第一部のパネルディスカッションを終了させていただきます。どうもありがとうございました。

# J Aグループ通信

J Aグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

J A北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

## J A北海道中央会

J Aグループ北海道が組織する北海道農協政治連盟が、



次期参議院選全国比例区での組織代表候補として、黒田栄継氏を全国農政連に推薦しました。

黒田氏は芽室町で畑作経営を営んでおり、平成26年度に全青協会長を務め、組織活動でつちかった判断力・行動力と全国的な知名度があります。農政課題が山積する中、現役農業者の代表を国政に送り、世論形成の核となることが重要と考えています。

黒田氏と現職山田としお氏を含め、3名での予備選挙が6月上旬までに実施されます。全力で取り組みますのでご支援・ご協力をお願いします。



## J A北海道信連

J Aバンクでは、子どもたち

が食と農業への理解を深めるきっかけとなることを願い、平成20年度から、食農教育等をテーマとした教材本を製作し、J Aを通じて道内の小学校へ贈呈しています。今年度は、全道1,079校の小学校および特別支援学校に贈呈します。

なお、本会からは北海道教育委員会へ教材本の贈呈を行い、教材活用への協力をお願いしました。



北海道教育委員会  
教育長へ贈呈



## ホクレン

ホクレン女子

陸上競技部は、



2018年度の新体制について記者発表を行い、長渡新監督のもと「覚悟と挑戦」のスローガンを掲げ新たなスタートを切りました。菊地優子選手を主将に、寺島優奈、不破亜莉珠の新人2選手を加えた10名で全日本実業団女子駅伝や個人種目での目標達成に挑みます。長渡新監督は「身の引き締まる思い。新しい部の歴史に名を残せるような結果を今シーズンから残していきたい」と抱負を語りました。

## J A共済連北海道

J A共済連では、子ども共済の資料請求キャンペーンを実施しています。

子ども共済は、お子さま・お孫さまの学資金を計画的に準備でき、給付率は業界トップクラスです。また、2017年度に「マザーズセレクション大賞」を受賞しております。

今年度は、資料請求をされた方先着60,000名様に、アンパンマンお食事エプロンをプレゼントしています。詳細はホームページをご覧ください。



## J A北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。





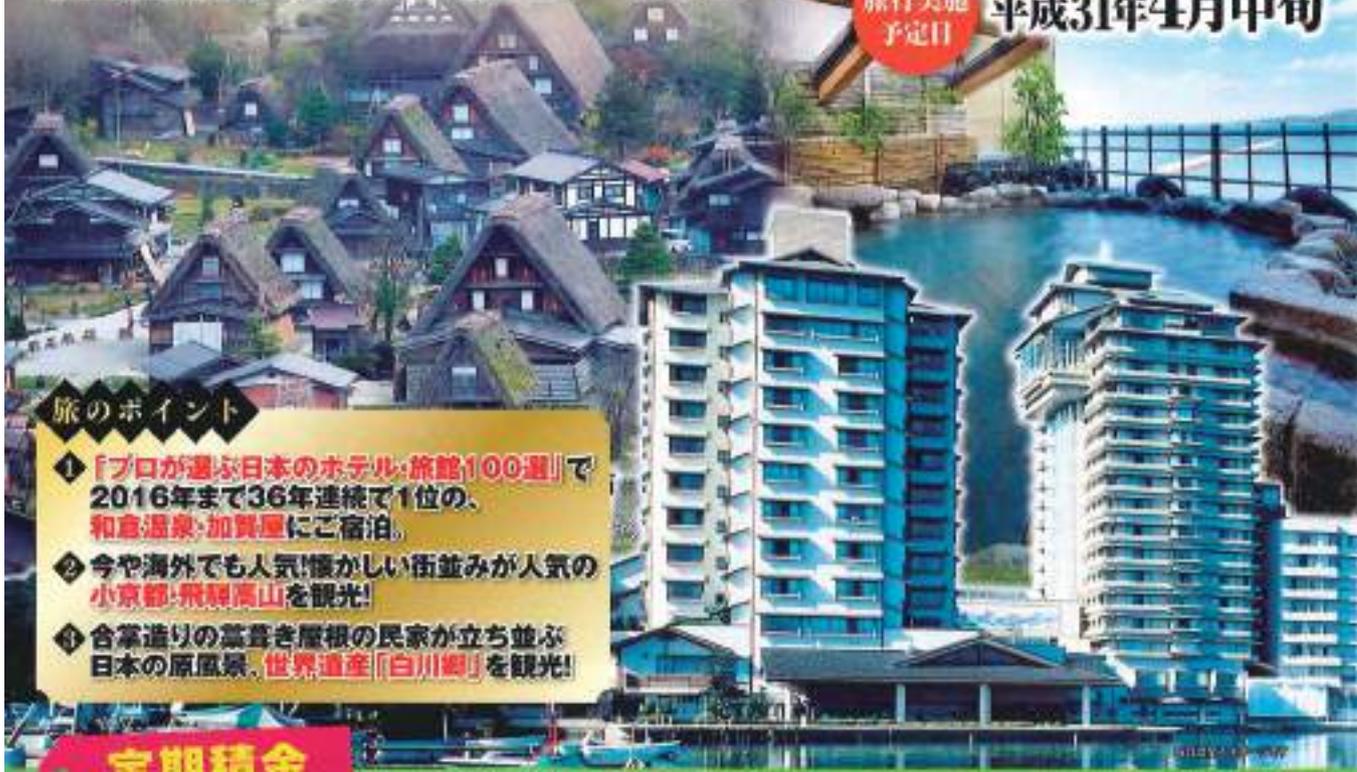
平成31年度 釧路管内6JA合同積立貯金旅行

# 定期積金旅行のご案内 予告版

## 北陸の名湯と飛騨高山を巡る旅 4日間

世界遺産 白川郷合掌集落・日本一の旅館  
和倉温泉加賀屋に泊まる

旅行実施  
予定日 平成31年4月中旬



### 旅のポイント

- ① 「プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選」で2016年まで36年連続で1位の、和倉温泉・加賀屋にご宿泊。
- ② 今や海外でも人気!懐かしい街並みが人気の小京都!飛騨高山を観光!
- ③ 合掌造りの葺き屋根の民家が立ち並ぶ日本の原風景、世界遺産「白川郷」を観光!

### 定期積金

積立期間は **ラクラク1年間** (平成30年4月～平成31年3月)

毎月の積立金額 **14,000円 × 12回**

満期お受取金額 **168,000円 + お利息**

\*定期積金は口座振替、もしくは店頭窓口にてお願いいたします。

**満期後のお支払い** 満期後、お客様のご要望により、(株)農協観光が企画・実施する「北陸の名湯と飛騨高山を巡る旅4日間」の旅行代金に充当することができます。なお、お客さまのご都合により、当該旅行への不参加の場合は、満期金額をお客様がお受取いただけます。

**旅行のお申込み** 当旅行につきましては、裏面に「予告版」として(株)農協観光によりご案内させていただきますが、平成31年2月上旬に改めて正式な募集広告を積立いただいているお客様宛にご送付させていただきます。ご旅行に参加される方は、この正式書面を確認後、(株)農協観光と募集型企画旅行契約を締結することとなります。

JA釧路太田 JA浜中町 JAしべちゃ JA摩周湖 JA阿寒 JAくしろ丹頂

# 理事会報告

3月定例理事会 平成30年3月30日(金)

## 報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 2月末(決算)財務状況について
4. 事業の実施処理状況について
5. 自己査定結果について
6. 経営定期点検の実施結果について
7. 理事に対する資金の貸付報告について
8. 平成29年度事業報告及び決算概要について
9. 平成29年度内部監査の業務活動報告について
10. 内部統制(コンプライアンス・プログラム含む。)及びリスク管理に係る取組状況について

- 議案第6号 第12回通常総会の招集および提出議案について
- 議案第7号 議決権行使書面の取扱いについて
- 議案第8号 信用の供与等の最高限度額設定について
- 議案第9号 理事に対する資金の貸付について
- 議案第10号 役員と組合との取引基準の決定について
- 議案第11号 平成30年度の余裕金運用について
- 議案第12号 平成30年度コンプライアンス・プログラムの設定について
- 議案第13号 融資の承認について
- 議案第14号 固定資産の取得について
- 議案第15号 平成30年度経営定期点検実施計画書の策定について
- 議案第16号 諸規程等の制定について
- 議案第17号 諸規程等の一部変更について

## 付議事項

- 議案第1号 目的積立金の目的取崩について
- 議案第2号 平成30年度(第13年度)事業計画の設定について
- 議案第3号 平成30年度諸利率・料率の設定について
- 議案第4号 貸付金の利率の最高限度について
- 議案第5号 定款の一部変更について

## その他協議事項

1. 春季地区懇談会の開催について
2. 「第3次地域農業振興計画・中期経営計画」の組合員アンケート実施について
3. 当面の業務日程について

■平成29年度	生乳生産実績(3月)			
	月計乳量(kg)	3月前年比(%)	累計乳量(kg)	累計前年比(%)
JAくしろ丹頂	8,659,850.0	102.8	99,171,325.7	98.8
鶴居地区	3,146,195.3	107.5	35,647,962.2	103.1
幌呂地区	2,278,602.5	99.3	26,342,073.2	98.0
白糠地区	1,753,437.2	100.4	20,275,232.8	97.5
音別地区	1,481,615.0	101.6	16,906,057.5	93.2
管内計	45,218,297.8	101.5	528,222,192.0	99.3
(前年度管内計)	44,530,415.1		531,971,543.5	

## 大野夏織

大変お世話になりました。

幌呂支所 家畜改良課家畜改良係  
4月30日をもって退職しました。

編集後記  
EDITOR'S NOTE

□青年部役員とJA役職員との意見交換会に出席し、この意見交換会が青年部として初めての試みでもあり、今後へ繋がる大変意義あるものでした。農協改革の動きが進むなか、組合長の言葉にもあった「国民の食料生産等大変大きな役割を担っている農業の重要性を理解しつつ、改革すべきは改革をし、当JAが持続可能な事業運営のあり方等を模索し、進むべき道を組合員の皆様方と考え取り組んで参りたい。」という意味が、今後更に重要度が増していくものと強く感じました。